

ホンダ

スノーラ

HS660/HS870/HS970

取扱説明書

お買いあげありがとうございました。
ご使用になる前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。

お買いあげありがとうございました。

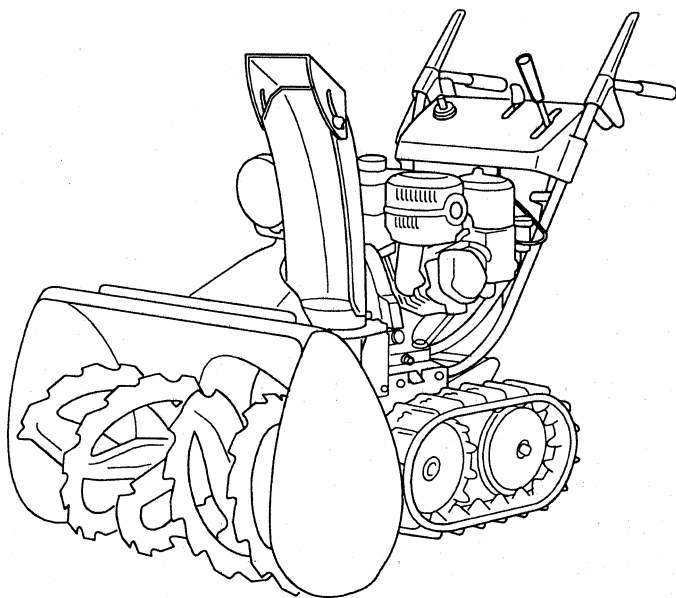
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

は じ め に

この取扱説明書は、商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

除雪機を運転する前に本書をよくお読みいただき、十分理解してからご使用ください。

取扱説明書はわからない事があった時に読むことができるよう大切に保管し、日常の手引きとしてご活用ください。



安全に取扱いをしていただくために取扱説明書で **注意** マークのついた項目がその都度記載されております。必ずお守りください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などにより内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

目 次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう	4
各部の名称と取り扱いをおぼえましょう	8
エンジン スイッチ	10
燃料コック レバー	10
始動グリップ	11
エンジン回転調整レバー	11
変速レバー	12
投雪口調節スイッチ	12
投雪口調節ハンドル・レバー	12
オーガ クラッチ レバー	13
走行クラッチ レバー	14
スキッド、スクレーパ	14
ハイト アジャスト ペダル	15
雪落とし棒	15
作業灯	16
HST切換えレバー	16
燃料計	17
変速機オイル タンク	17
エンジンをつける前に点検しましょう	18
ガソリンの点検	18
エンジン オイルの点検	19
バッテリーの点検	20
オーガ、プロア ロック ボルトの点検	21
その他の点検	21
エンジンのかけかた	22
運転操作のしかた	30
1. スキッド、スクレーパの調整	30
2. ハイト アジャスト ペダルの調整	31
調整基準表(目安)	32
3. 始動	32

4. 運転操作	33
5. 除雪のしかた	36
除雪機の止めかた	39
定期手入れをいしましょう	42
日常点検	42
定期点検	43
やさしい点検・整備	44
エンジン オイルの交換	44
点火プラグの清掃、調整	45
クローラ張り調整	46
除雪部の点検	47
各部の作業点検	48
ヒューズについて	48
運搬する時は	49
長期間使用しない時の手入れ	51
故障のときは	54
主要諸元	55
配線図	56

安全にお使いいただくために

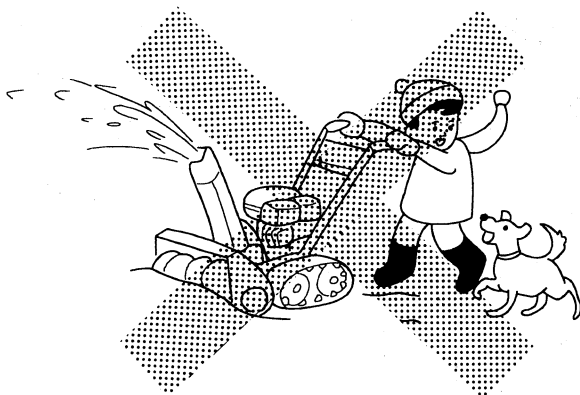
除雪機は正しく取り扱ってください。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な除雪作業のために次のことを必ずお守りください。

☆本機は除雪以外の目的で使用しないでください。

☆本機は私有地でご使用下さい。

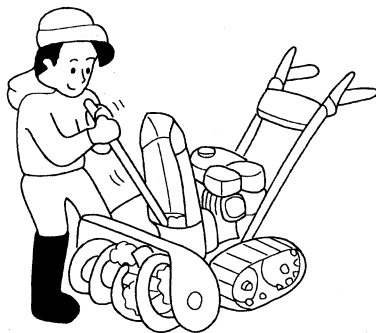
☆この取扱説明書を事前に読み、正しい取り扱い方法を十分ご理解のうえ自分で操作してください。

☆本機を子供には絶対操作させないでください。



☆まちがいなく取り扱う為に各種操作になれてください。

☆除雪部および投雪口に雪がつまった場合は、オーガ クラッチ レバーを切り、雪の除去作業が安全におこなえる場所に本機を移動し、除雪部を路面に完全におろし、エンジンを停止し、各部回転が停止しているのを確認してから、つまった雪を備え付けの雪落とし棒で取り除いてください。



これだけはぜひ守りましょう

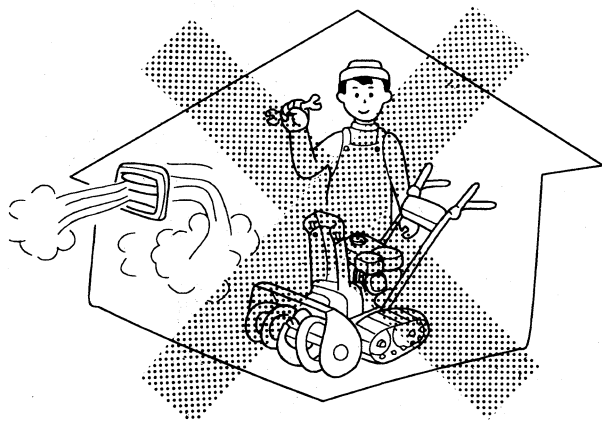
☆雪が降る前に除雪しようとする区域を事前に十分点検し、石、棒、板、針金などの障害物を取り除いてください。



☆屋根に積った雪や急斜面の除雪は行わないでください。

☆除雪部分や投雪口は危険ですので顔や手足等を絶対に近づけないでください。

☆屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。

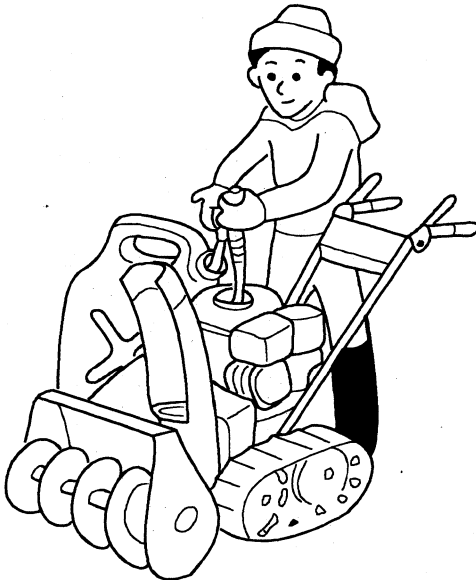


☆各部点検で本機に触れる際は、必ずエンジンを停止し、各部が冷えるまで十分に時間をおいてください。

☆作業時以外は、必ず除雪部を完全に路面まで下げておいてください。

●作業を始める前に

- ☆作業をする時は、手袋、帽子、防寒服、防寒ぐつ等防寒用の身支度をしてください。また防寒ぐつはすべり止めのあるものを着用してください。
- ☆本機の操作をおこなう場合には、必ずハンドルを持ち、中央部に位置してください。
- ☆砂利道等の除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので除雪しないでください。
- ☆作業点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理を完全に行っておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。
- ☆燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止して火記厳禁で行ってください。
- ☆燃料は、こぼさないように注意し、所定のレベルまで補給してください。もし、燃料がこぼれた場合には、きれいに拭き取り、乾かしてから始動してください。



●作業中の注意

- ☆急発進は、絶対に行わないでください。必ず変速レバーを“N”の位置にしてから走行クラッチレバーを握り、徐々に変速レバーを操作してください。
- ☆方向転換時は、必ず本機械を水平にし十分速度をおとして行ってください。
- ☆共同作業は雪のためスリップし思わぬ事故を招く事があります。絶対に行わないでください。
- ☆除雪部は回転しているので大変危険です。手、足等を絶対に近づけないようにしてください。また、人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
- ☆除雪部分や投雪口は危険ですので顔や手足等を絶対に近づけないでください。
- ☆投雪方向を直接人等に向けたり、窓ガラスに向けて使用しないでください。投雪方向の調節はそのたび適切に行ってください。
- ☆万一、雪の中に石等の異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
- ☆除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握り、けっして走らないでください。
- ☆後進時には、足元および後方に十分注意してください。
- ☆除雪中障害物に当たった時はすぐにエンジンを止め、点火プラグキャップを取り外し、回転部が停止してから注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
- ☆使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店へ連絡してください。

●作業が終わったら

- ☆本機から離れる時には、必ずエンジンを止め、エンジンスイッチキーを外してください。
- ☆長期保管前には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のある所には保管しないでください。また、抜いた燃料は引火性があり、爆発の危険がありますので所定の燃料タンク等に保管してください。
- ☆作業後は、除雪部の雪を取り除いて格納してください。
次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。
- ☆駐車ブレーキ機構がありませんので、坂道での駐車はしないでください。

各部の名称と取り

投雪距離調節レバー (HS870)

オーガ クラッチ レバー

燃料給油キャップ

作業灯
(HS870は除く)

投雪口

オーガ

走行クラッチ レバー

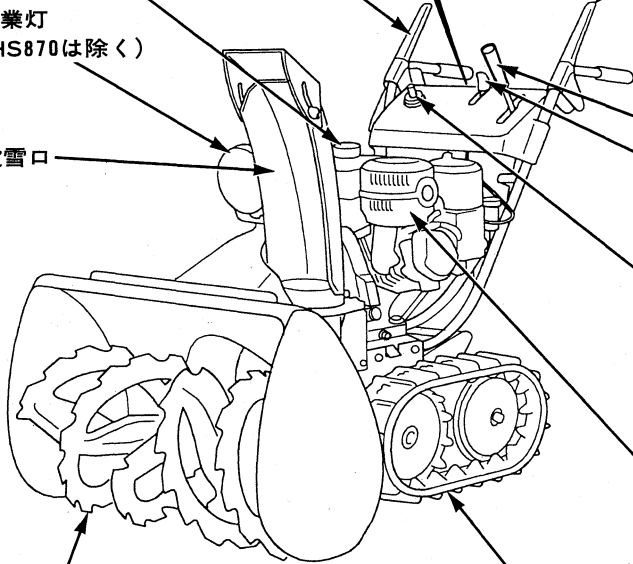
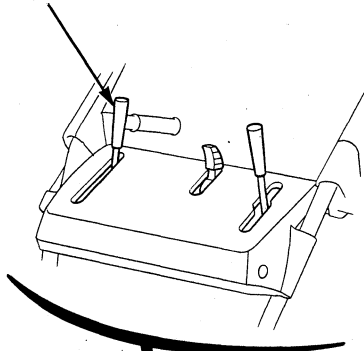
変速レバー

エンジン回転
調整レバー

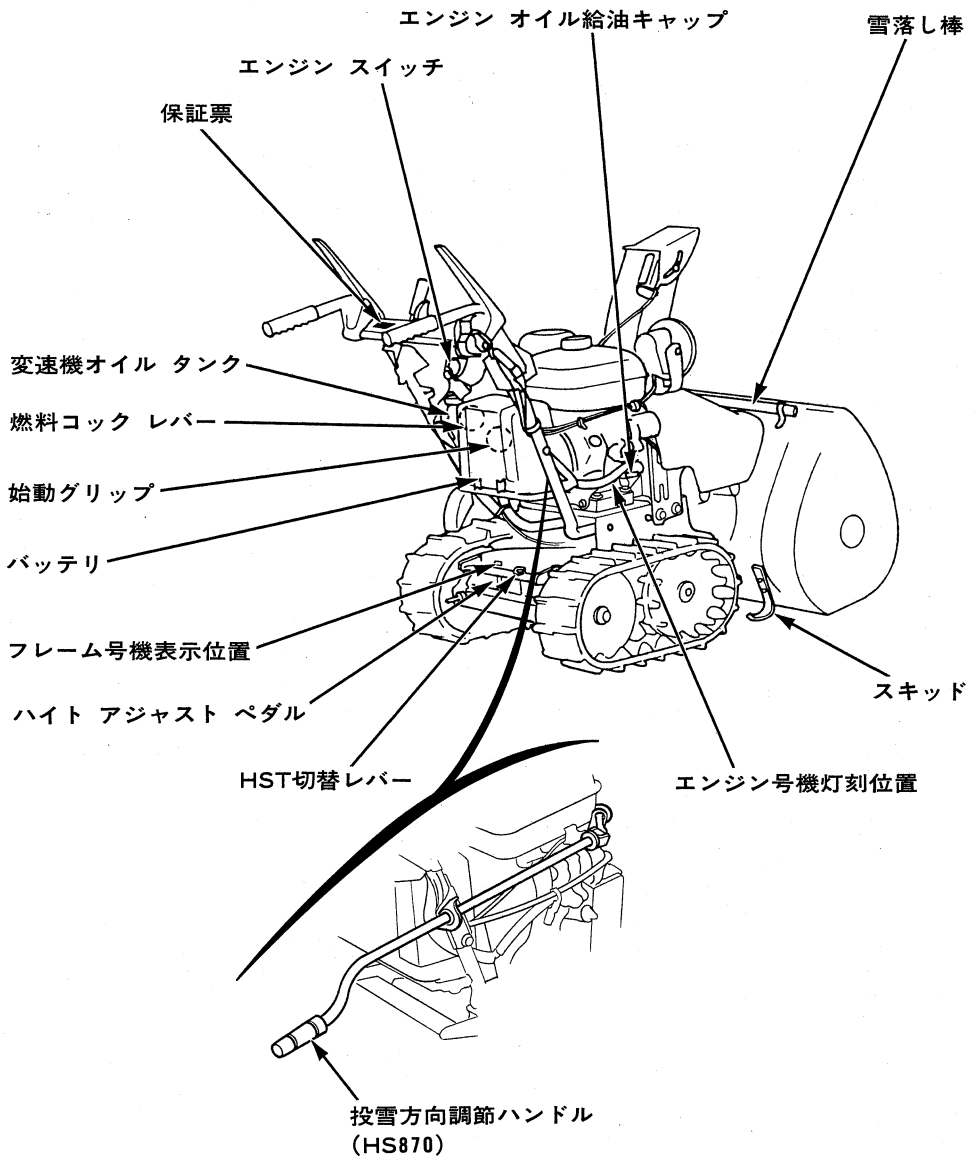
投雪口
調整スイッチ

マフラー

クローラ

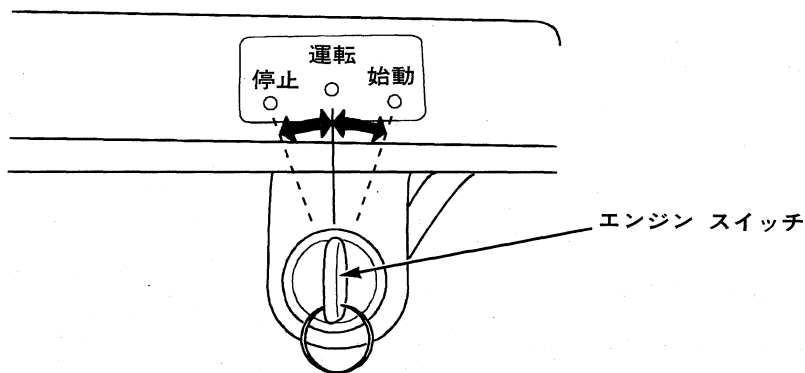


扱いをおぼえましょう



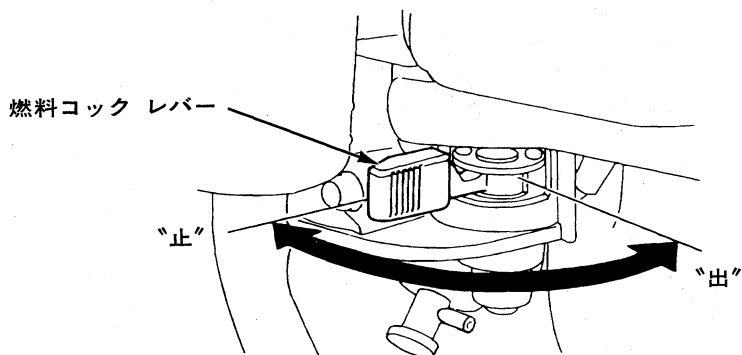
エンジン スイッチ

エンジンの始動、運転、停止をする時に操作します。



燃料コック レバー

燃料タンクから気化器までの燃料通路を開閉する時に操作します。
操作は確実に“止”“出”の位置に合わせます。



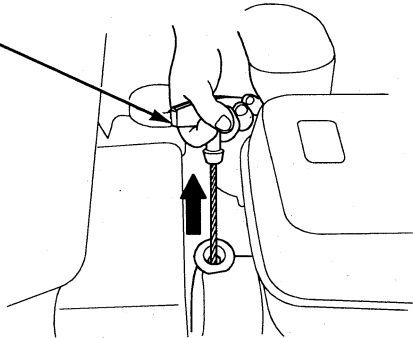
注意

・運搬時、保管時及び点検整備時に本機を傾むける時はレバーを“止”の位置に合わせてください。“止”にしないと燃料がもれることがあります。

始動グリップ

セルスタータが使えない場合エンジンを始動する時に操作します。

始動グリップ

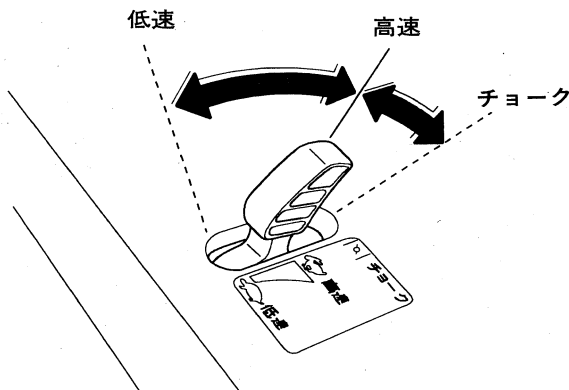


注意

- ・ 始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。始動装置を破損することがありますので静かにもとの位置にもどしてください。
- ・ 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整する時に操作します。状況に応じて回転数を調整してください。エンジンを始動する時は、チョークの位置に合わせてください。

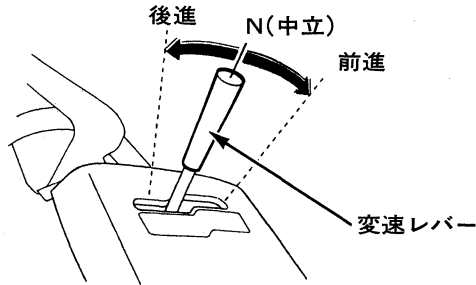


変速レバー

除雪機を前進、後進する時に操作します。

前進、後進が無段階に調整できます。

除雪機を使用しない時は“N”(中立)の位置にしてください。

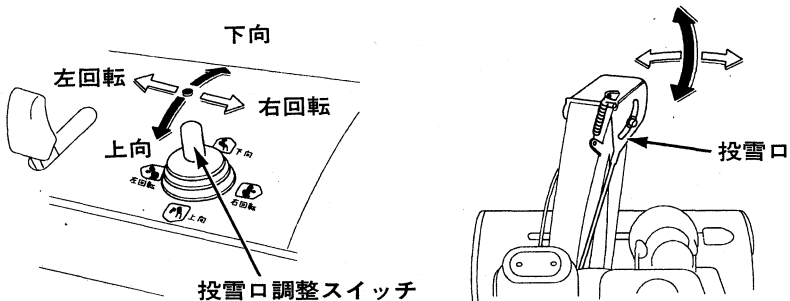


投雪口調整スイッチ

投雪方向や距離を変える時に操作します。

エンジン スイッチを“運転”の位置にし、スイッチを操作することによって投雪口を上・下・左・右に無段階に調整することができます。

投雪口調整スイッチはエンジンが運転している時に操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリーが消耗します。



注意

・投雪距離や方向を変える時には人や窓ガラス等に注意して行ってください。

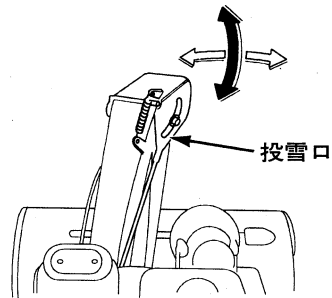
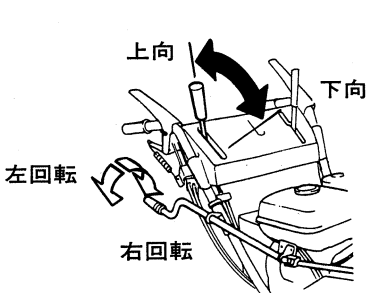
投雪口調節(HS870)

投雪方向調節ハンドルを操作します。

ハンドルを左に回らすと投雪方向が右になります。

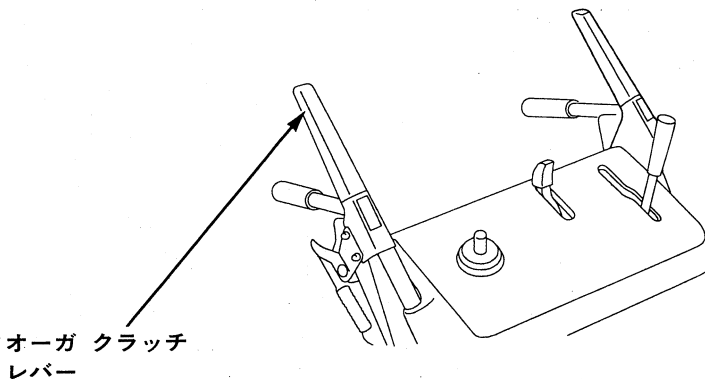
ハンドルを右に回らすと投雪方向が左になります。

投雪距離調節レバーを操作します。



オーガ クラッチ レバー

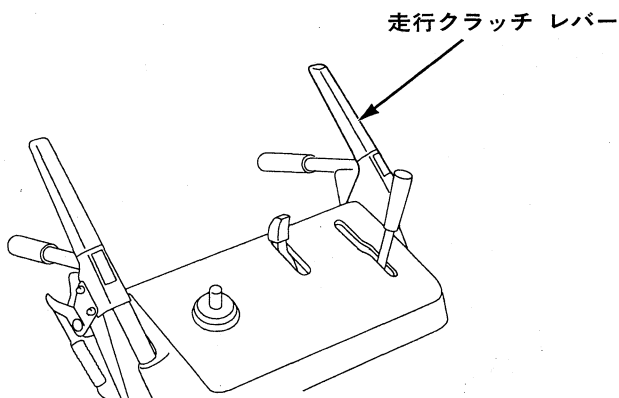
オーガ クラッチ レバーを握るとオーガが回転します。レバーをはなせば止まります。



走行クラッチ レバー

走行クラッチ レバーを握ると走行し、はなせば止まります。

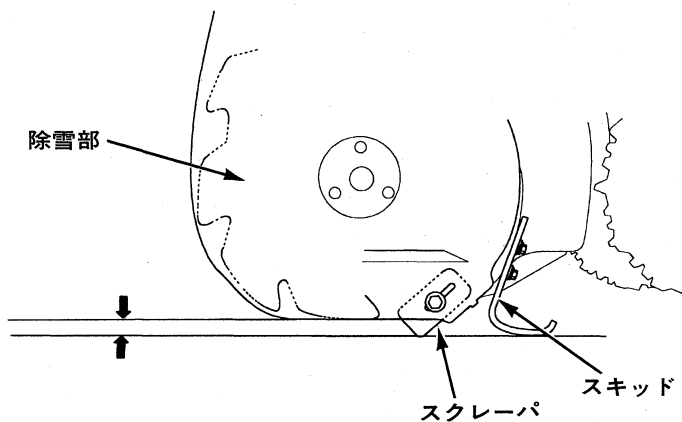
(変速レバーが前進・後進の時又はHST切換えレバーが自走の時)



オーガ クラッチ レバーと走行クラッチ レバーには連動機構が装備されています。(35頁参照)

スキッド、スクレーパ

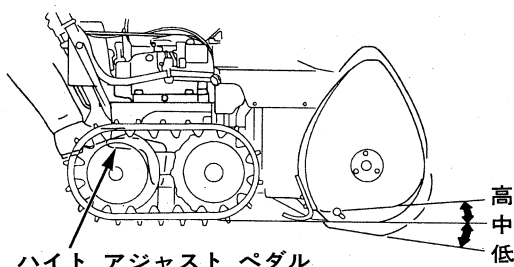
除雪する路面の状態に合わせて、除雪部と路面との高さを調整します。調節は30頁を参照してください。



ハイト アジャスト ペダル

除雪部の高さを変える時に操作します。

☆低位置にするときは、ハイト アジャスト ペダルを踏み込みハンドルを少し持ち上げてから足を離すと簡単にロックができます。



高：段切除雪、後進及び移動の場合に使用してください。

中：一般除雪(通常はこの位置で除雪してください。)

低：仕上げ除雪(舗装した平坦な場所で、できる限り雪を除去したい場合に使用してください。)

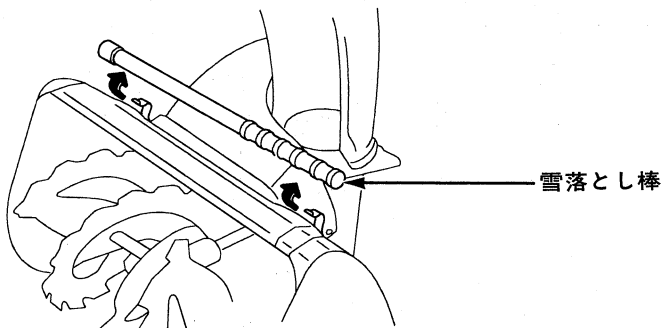
雪落とし棒

雪が除雪部や投雪口に詰ったときに使用します。

注意

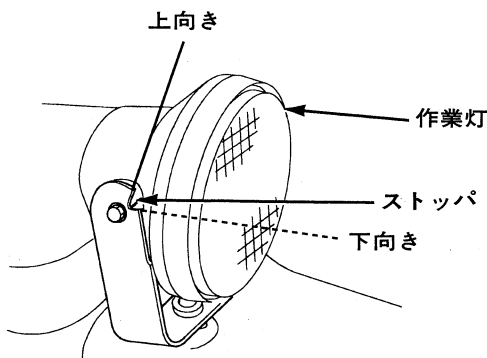
- ・雪落としを行う場合は、エンジンを停止し、プラグ キャップを取り外し、各回転部が停止してから行ってください。

雪落とし棒使用後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の取付位置にセットしてください。



作業灯 (装着車のみ)

エンジン運転中に点灯し、エンジンを停止すると消灯します。
エンジンスイッチを“**運転**”の位置にただけでは点灯しません。
ストップの調整にて、上向き、下向きの調整ができます。



HST切換えレバー

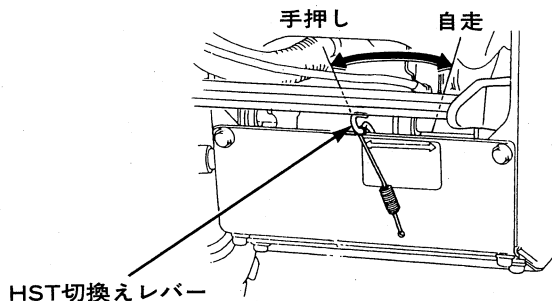
作業走行時は自走にしておきます。除雪機を手で押して移動する必要がある時には、手押しにします。

切換えるときは

1. エンジンを止めます。
2. 変速レバーを“**N**”(中立)にします。
3. HST切換えレバーを自走または手押しにセットします。

注意

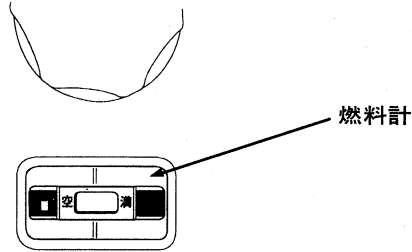
・斜面ではHSTレバーの切換えは絶対にしないでください。レバーの切換えは、必ず平坦な場所で行ってください。斜面でHST切換えレバーを操作すると、除雪機が動きだす事があり危険です。



燃料計

燃料の残量を示します。

燃料計の針が“空”に近づいたら早目に補給してください。



変速機オイル タンク

☆変速機オイルは専用オイルを使用しております。オイルの補充はお買い上げ販売店にお申しつけください。

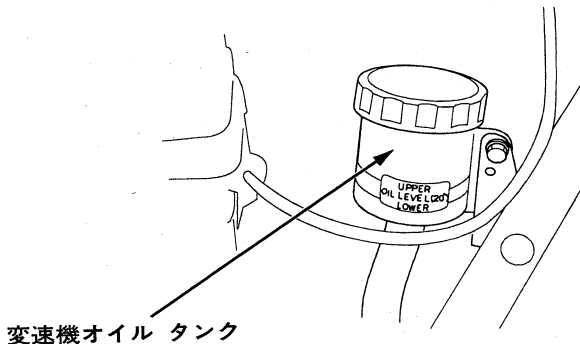
指定オイル：ホンダ純正 H-HST オイル

☆変速機オイルの点検は「除雪時期初めの点検」でお買い上げ販売店で受けてください。

☆外気温が低い時(約 -20°C 以下)運転前には変速機オイル タンクのオイルレベルが見えない場合がありますが、これは異常ではありません。

除雪作業を行い変速機が暖まってくると、オイル レベルが見えるようになります。

☆オイルは熱の影響で膨張したり収縮したりして容量が変化します。



エンジンをかける前に点検しましょう

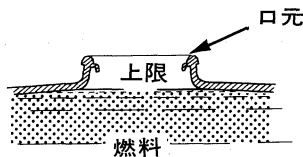
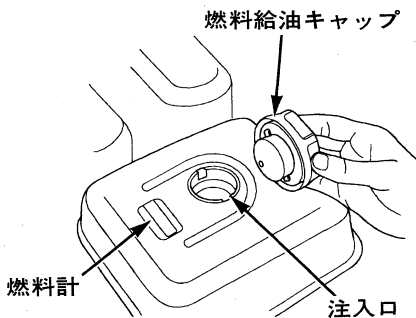
注意

・点検は平坦な場所でエンジンを水平にしてエンジンをとめて、点火プラグ キャップを外して行ってください。

ガソリンの点検

点 検

燃料計の針が“満”の位置にあるか確認します。少ない時には図の位置まで補給してください。



補 給

使用燃料：無鉛ガソリン(レギュラ ガソリン)

タンク容量：HS660 ———— 3.5 l

HS870/HS970— 6.0 l

- 給油キャップを外し、図の位置(上限)まで補給します。
- 補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

注意

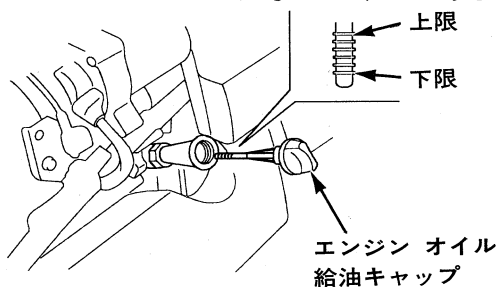
- ・火気厳禁
- ・必ずエンジンをとめて補給してください。
- ・万一燃料が口元よりあふれた時は、こぼれた燃料を布切れ等で速やかに拭きとり、よく乾燥させてからエンジンを始動してください。
- ・除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。
燃料タンク内に雪等が入るとエンジン不調の原因になります。

エンジン オイルの点検

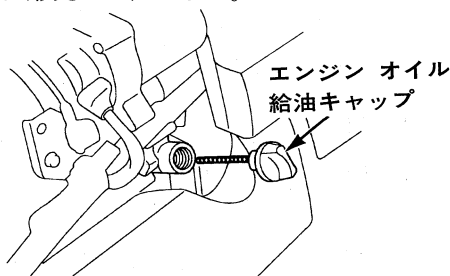
点 検

HS660 ……………エンジンを水平にして、オイル給油キャップを外し、キャップをねじこまず差し込んで点検してください。

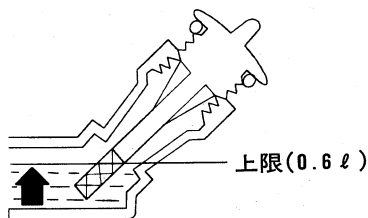
HS870/HS970…エンジンを水平にしてオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



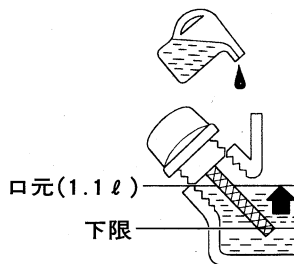
(HS660)



(HS870/HS970)



(HS660)



(HS870/HS970)

補 給

☆油面が下限に近いときには新しいオイルを口元、または上限まで補給します。

☆汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は44頁参照)

推奨オイル：(4サイクル ガソリン エンジン オイル)

ホンダ純正汎用寒冷地オイル(SAE 5W-30)又はAPI分類SE
又はSF級以上のSAE 5W-30エンジン オイル。

オイル容量：660-0.6ℓ

HS870/HS970-1.1ℓ

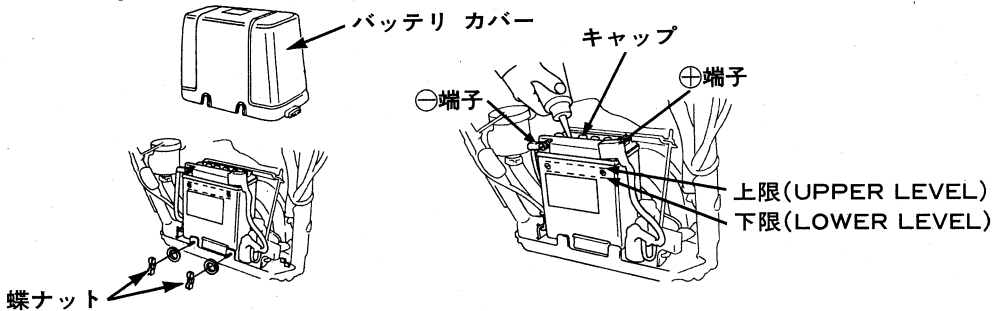
●キャップは確実に締付けてください。

締付けがゆるいとオイルがもれます。

バッテリー液の点検

《点検のしかた》

1. バッテリー カバー下部の蝶ナット 2 個をゆるめバッテリー カバーを取り外します。
 2. バッテリーの液面が各層とも上限(UPPER LEVEL)と下限(LOWER LEVEL)の間にあるか点検してください。
同時にキャップの通気孔のつまりを点検してください。
少ないときはキャップを外し、バッテリー補充液(蒸留水)を上限(UPPER LEVEL)まで補給します。
- ☆端子のゆるみ、腐食は接触不良の原因となります。ゆるんでいる時は確実に締付けてください。
- ☆端子に白い粉がついている場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。
- ☆長期保管後使用する時や、バッテリーが上がり気味の時は補充電を行ってください。

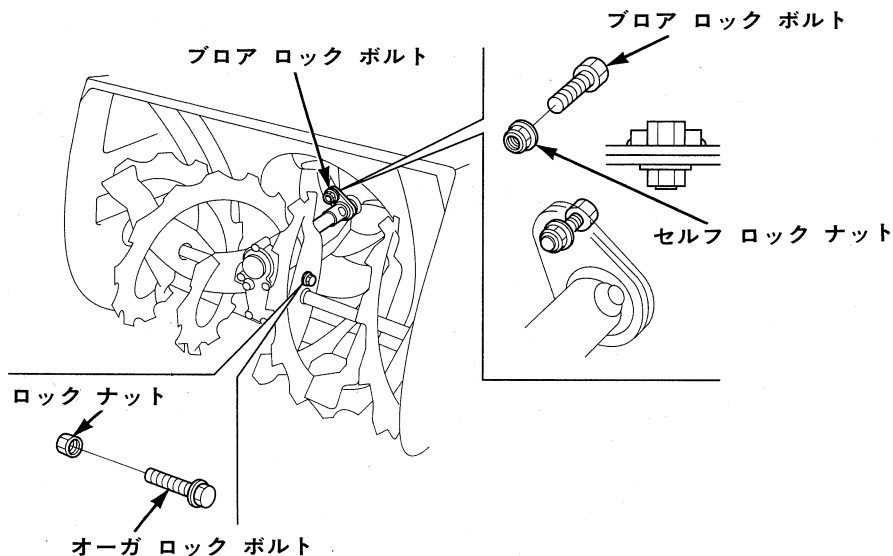


注意

- バッテリーの配線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、はずす時は⊖からはずしてください。
- バッテリーを取扱う時はショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分は侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着した時は、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診断をただちに受けてください。
- 長時間使用しない場合には、バッテリーの一端子を外しておいてください。
- 長期保管中は、6か月に一度、補充電を行ってください。

オーガ、ブロー ロック ボルトの点検

オーガ、ブロー ロック ボルトのゆるみ、折れを点検します。もし折れている場合は47頁の手順に従って交換してください。



☆オーガ、ブローのロックボルトは、石のかみ込み等の異常な負荷が加わった際に、本機の損傷を防ぐ為に折れるしくみになっています。

その他の点検

次の点検も忘れずに行ってください。

1. 各部の締付け、ゆるみ、ガタはないか
2. 各部の作動状態
3. 異常箇所……………前日悪かった所はないか

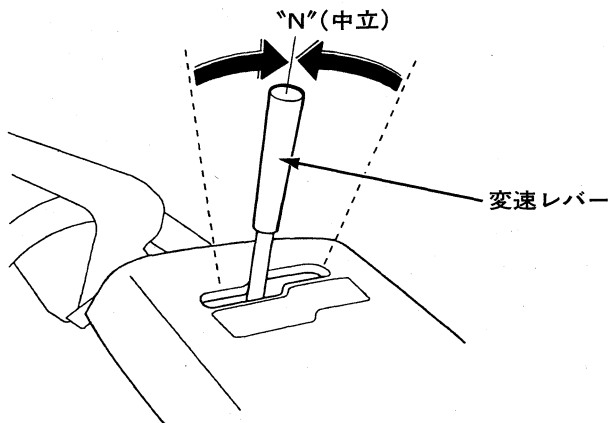
エンジンのかけかた

注意

・エンジンは平坦な場所で始動してください。急な坂道で変速レバーを“N”(中立)の位置にすると本機が空走する場合があります。

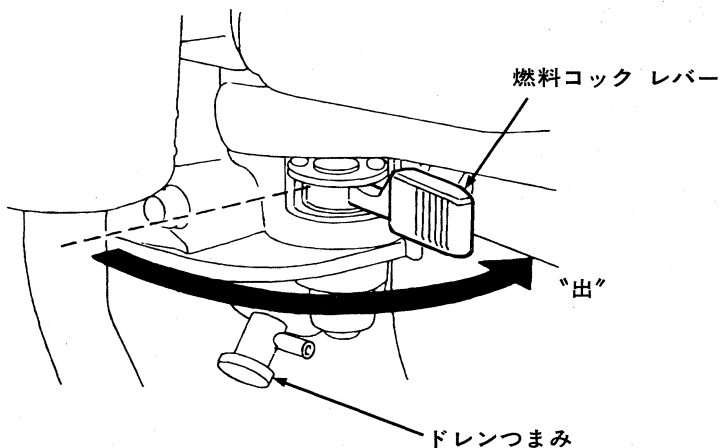
セルスタータを使用する場合

1. 変速レバーを“N”(中立)の位置にしてください。

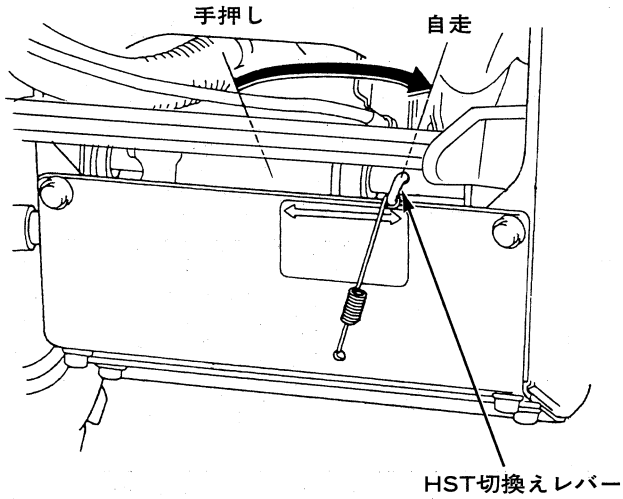


2. 燃料コックレバーを“出”の位置に合わせます。

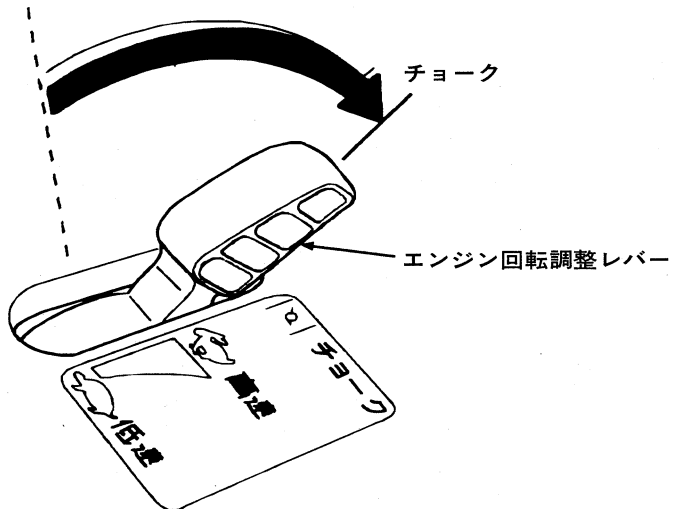
ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。



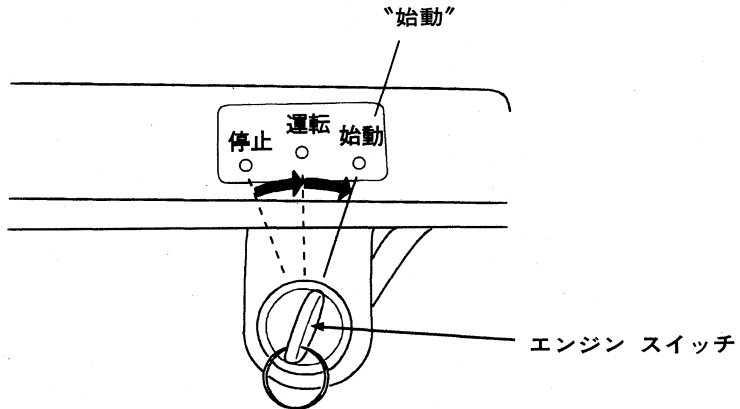
3. HST切換えレバーを“自走”の位置にしてください。



4. エンジン回転調整レバーを“チョーク”位置に合わせてください。



5. エンジン スイッチを“始動”の位置まで回し、スタータをまわします。
エンジンが始動したらスイッチから手を離し“運転”の位置に戻します。

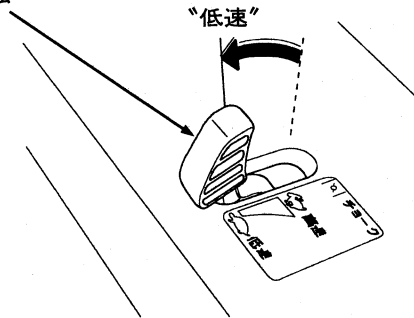


注意

- スタータを回して5秒以内でエンジンが始動しない時は、10秒ほど間をおいてから再始動してください。
- スタータを回す時は、オーガ クラッチ レバーおよび走行クラッチ レバーを絶対に握らないでください。本機が始動と同時に回転走行し大変危険です。

6. 始動後 2 ～ 3 分間暖機運転を行い、エンジン回転が安定するのを確認しながらエンジン回転調整レバーを“低速”の位置に戻します。

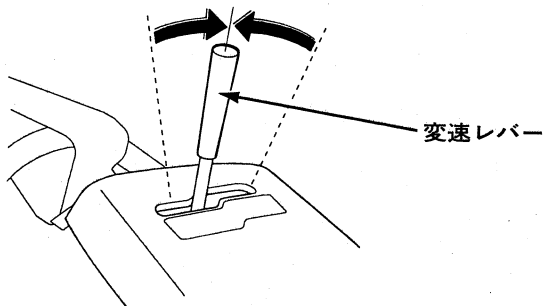
エンジン回転
調整レバー



7. 暖機運転中に次の手順で変速機オイルの暖機を行ってください。

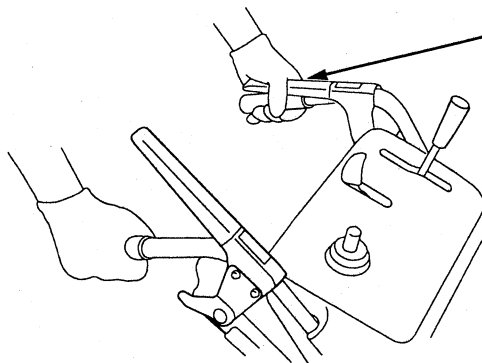
① 変速レバーが“N”(中立)になっていることをもう一度確認してください。

“N”(中立)



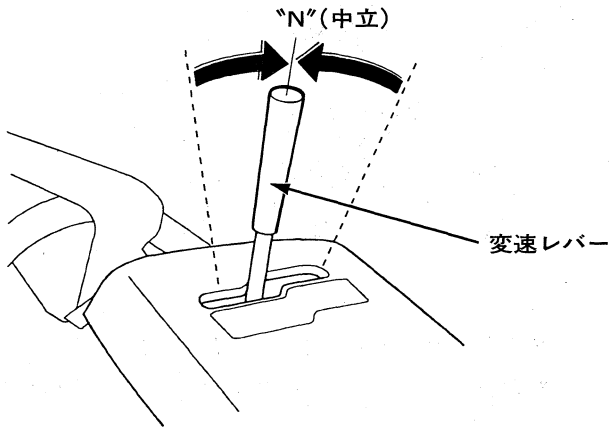
② 約30秒ほど走行クラッチレバーを握りつづけてください。

走行クラッチレバー



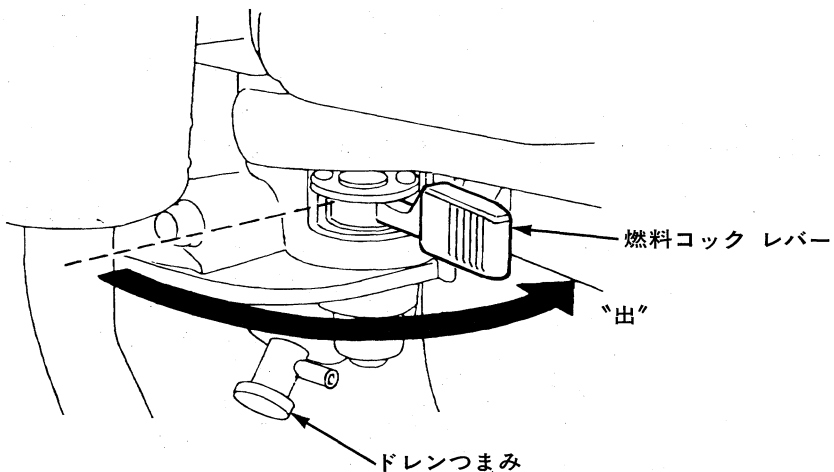
バッテリー上がり、ヒューズ切れ等によりセルスタータが使えない場合

1. 変速レバーを“N”(中立)の位置にしてください。

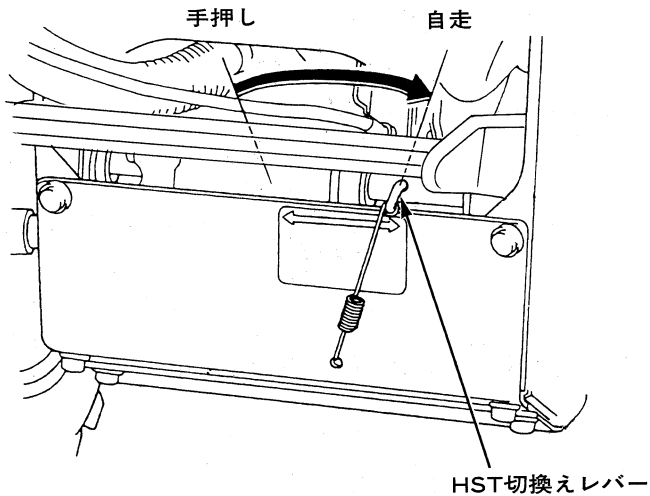


2. 燃料コックレバーを“出”の位置に合わせます。

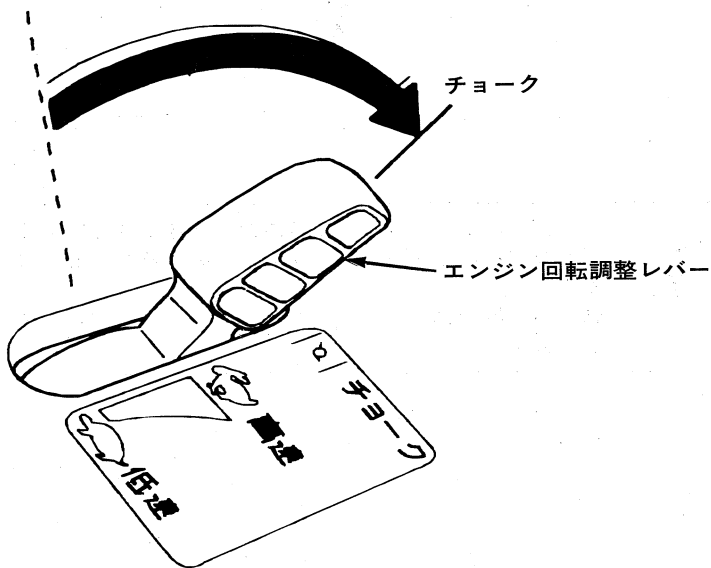
ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。



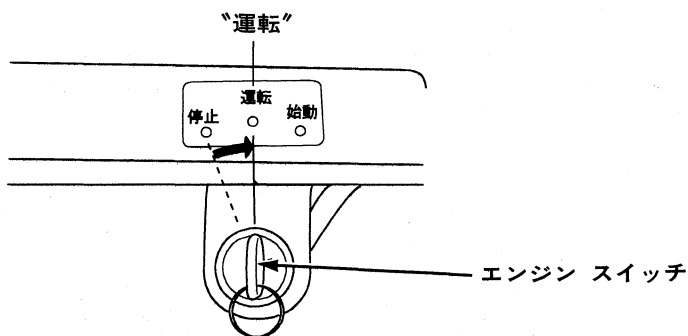
3. HST切換えレバーを“自走”の位置にしてください。



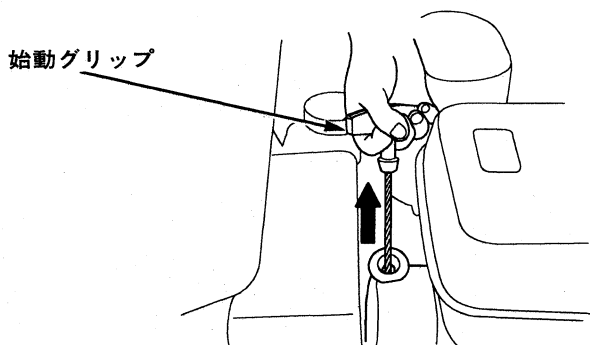
4. エンジン回転調整レバーを“チョーク”位置に合わせてください。



5. エンジン スイッチを“運転”の位置に合わせます。



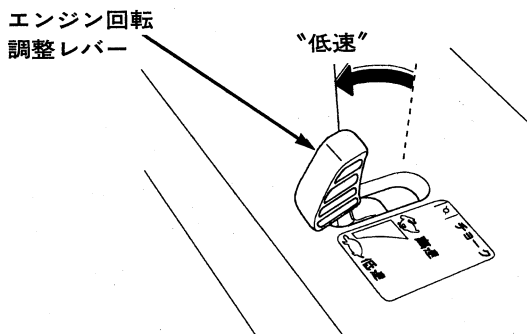
6. 始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。



注意

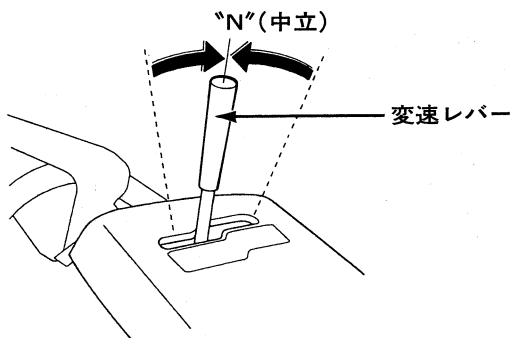
- 始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。始動装置を破損することがありますので静かにもとの位置にもどしてください。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

7. 始動後2～3分間暖機運転を行い、エンジン回転が安定するのを確認しながらエンジン回転調整レバーを“低速”の位置に戻します。

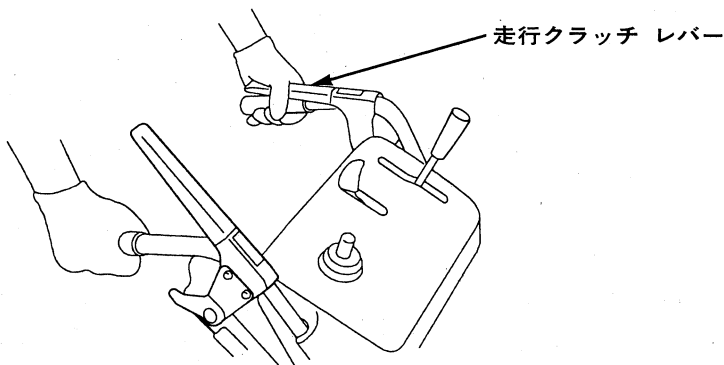


8. 暖機運転中に次の手順で変速機オイルの暖機を行ってください。

- ① 変速レバーが“N”(中立)になっていることをもう一度確認してください。



- ② 約30秒ほど走行クラッチレバーを握りつづけてください。



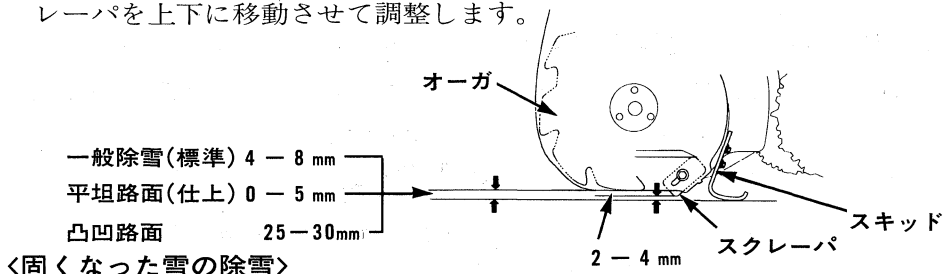
運 転 操 作 の し か た

除雪をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり除雪作業に取り掛かってください。

1. スキッド、スクレーパの調整

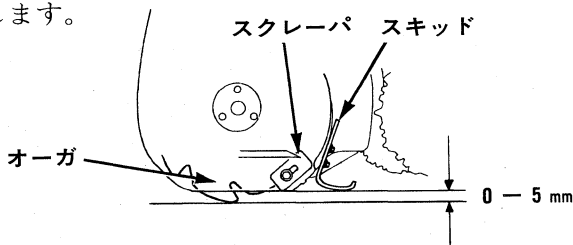
除雪する路面の状態に合わせて、路面との高さを調節します。

- 1) エンジンを停止し、エンジン スイッチ キーを抜きます。
- 2) 除雪部を平坦路に置き、ハイト アジャスト ペダルを“中”位置にします。
- 3) オーガと路面とのすき間を調整します。路面の状態に合わせて、スキッドを上下に移動させて調整します。(スキッドは路面接地状態)
- 4) スクレーパと路面とのすき間を調整します。すき間が2～4 mmに、スクレーパを上下に移動させて調整します。



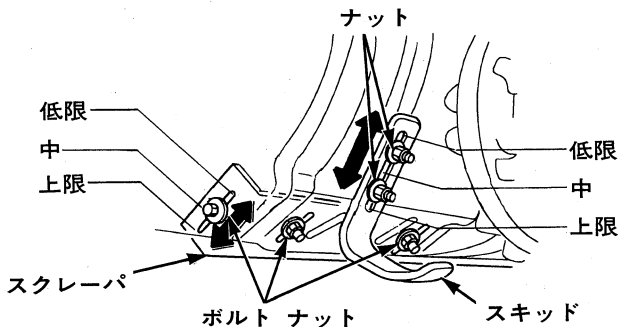
<固くなった雪の除雪>

- 1) ハイト アジャスト ペダルを“中”にします。
- 2) スキッドとスクレーパの調整用ボルトとナットをゆるめ、オーガを接地させます。
- 3) スキッドと路面とのすき間が0～5 mmになるように、スキッドを上下に移動させて調整します。
- 4) スクレーパと路面とのすき間が0～5 mmになるように、スクレーパを上下に移動させて調整します。



注意

- ・この調整は、固くなった雪の除雪の場合のみ行ってください。
- ・この調整を行うと路面を傷付けたり、石飛びの恐れがあります。危険ですのでこのような可能性のある場所では使用しないでください。



☆スキッドは左右同じ高さに調整してください。

☆調整後は必ずボルトとナットを確実に締め付けてください。

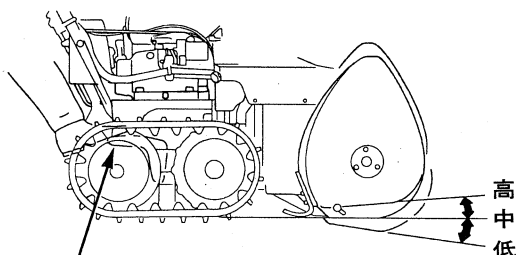
☆段切作業用に調整した状態で路面出し作業を行わないでください。除雪部に悪影響をあたえます。

2. ハイト アジャスト ペダルの調整

エンジンを停止し、エンジン スイッチ キーを抜きます。

路面の状況に応じてオーガを接地させる、さらにくい込ませる、あるいは少し浮かせるを決めハイト アジャスト ペダルで調整します。

ハンドルを両手で支え、ハイト アジャスト ペダルを軽く踏み、ハンドルを上下に動かし、ペダルの溝を合わせてください。



ハイト アジャスト ペダル

高：段切除雪、後進及び移動の場合に使用してください。

中：一般除雪(通常はこの位置で除雪してください。)

低：仕上げ除雪(舗装した平坦な場所で、できる限り雪を除去したい場合に使用してください。)

☆調整表を目安にしてください。(32頁参照)

☆低位置にするときは、ハイト アジャスト ペダルを踏み込みハンドルを少し持ち上げてから足を離すと簡単にロックができます。

●調整基準表(目安)

	※硬雪除雪	一般除雪	凸凹路面除雪	仕上げ除雪	段切り(食い込み)
オーガ スキッド	「上限」位置	調整代 「中」位置	調整代「下限」 まで下げる	「中」位置	調整代 「上限」まで上げる
スクレーバ	「上限」位置	調整代 「中」位置	調整代「上限」 まで上げる	ハイト アジャスト 「中」又は「低」位置 で地面との隙間を 0～5mmに調整	調整代 「上限」まで上げる
ハイト アジャスト	「低」位置	「中」位置	「高」位置又は 「中」位置程度	「低」又は「中」の位 置	「中」又は「高」の位 置

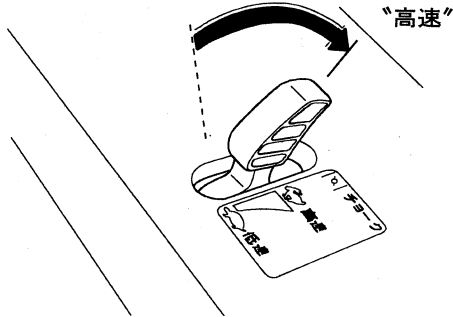
→※硬い地面が出た条件での作業時では除雪部に悪影響を与える
恐れがありますので必ず雪上で使用されるようお願い致します。

3. 始動

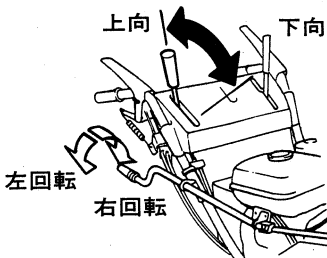
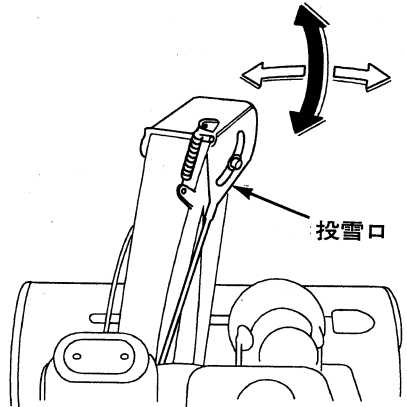
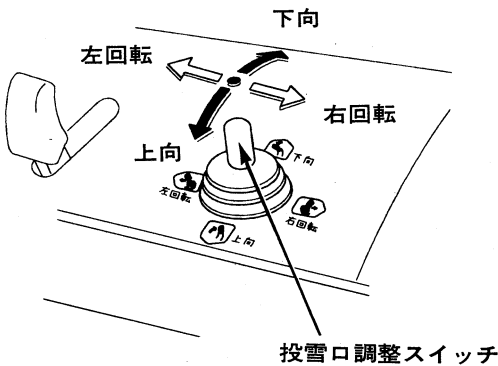
始動については22頁から29頁を参照してください。

4. 運転操作

—1. エンジン回転調整レバーを“高速”にあわせます。

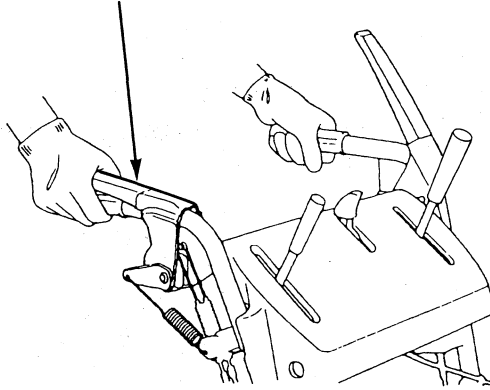


—2. 投雪距離と方向を調整します。



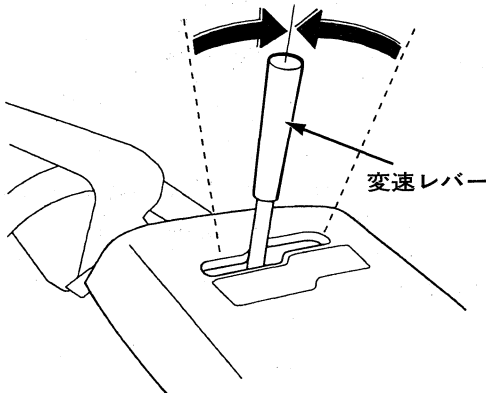
ー3. オーガ クラッチ レバーを握りオーガを回転させます。

オーガ クラッチ レバー

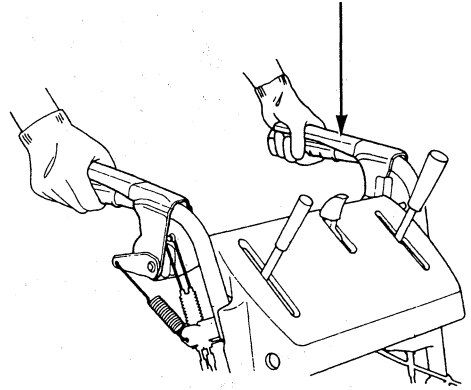


ー4. 変速レバーが“N”(中立)の位置にあることを確認した後に走行クラッチレバーを握ります。

“N”(中立)



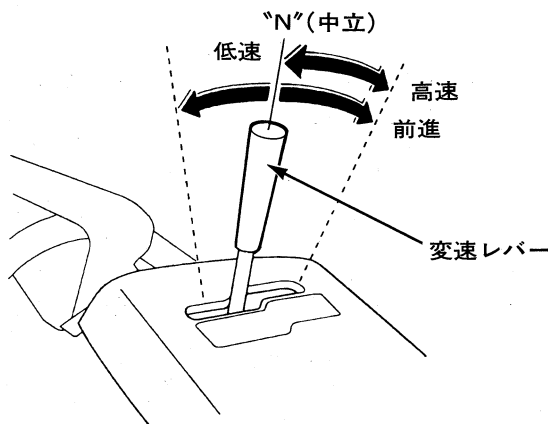
走行クラッチ レバー



注意

・オーガ クラッチ レバーおよび走行クラッチ レバーを握る際には周囲の安全を十分に確認してください。

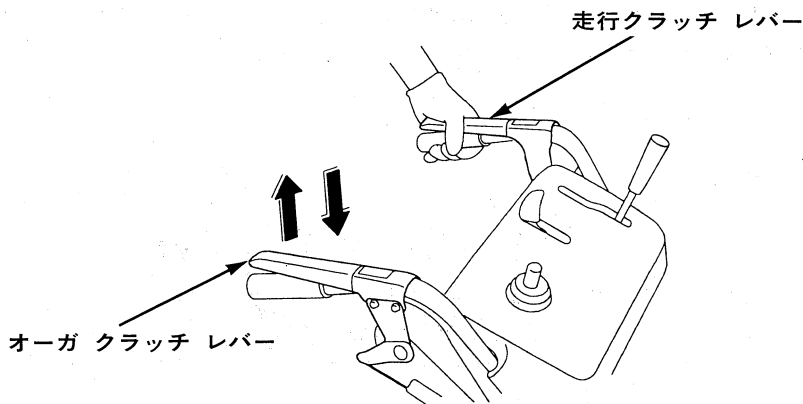
5. オーガ クラッチ レバーから手を離し、雪質・積雪量に合わせて変速レバーの位置を選び車速を設定します。



☆オーガ クラッチ レバーと走行クラッチ レバーの連動手順

1. オーガ クラッチ レバーを握りながら次に走行クラッチ レバーを握ります。
2. オーガ クラッチ レバーを離しても、オーガ クラッチ レバーが固定され、投雪と走行ができます。

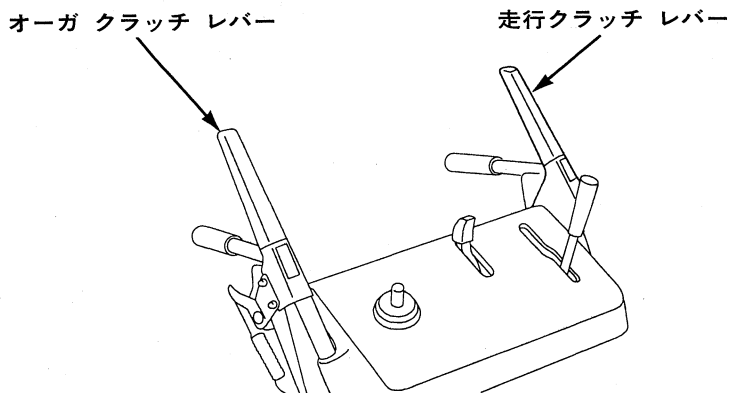
この状態から走行クラッチ レバーを離せば、投雪と走行が停止します。



☆除雪の時は、オーガ クラッチ レバーを先に操作してください。

☆移動の時は、走行クラッチ レバーのみ使用してください。

ー6. 投雪および走行を停止する場合は両方のクラッチ レバーから手を離してください。

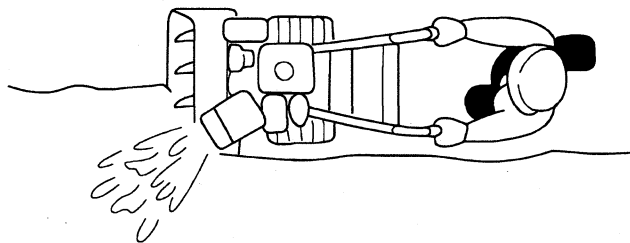


5. 除雪のしかた

除雪の作業はエンジンの回転を落とさず行うことが重要です。そのためには次のような要領を参考にして除雪作業を行ってください。

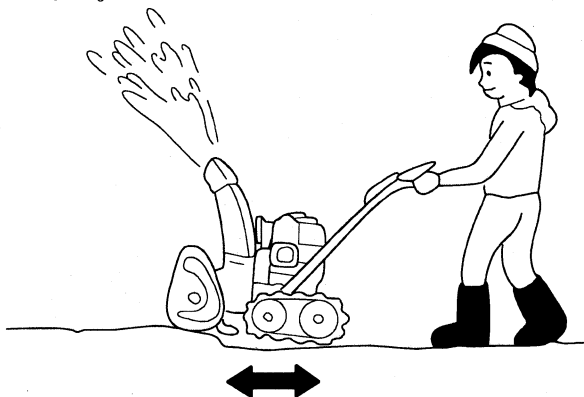
●除雪幅を狭くする方法

深い雪や、固くなった雪の場合は低速で除雪してください。またこのような場合除雪部に掛かる雪幅を狭くして行ってください。



●前後進除雪の方法

固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、前、後進を繰り返して除雪してください。

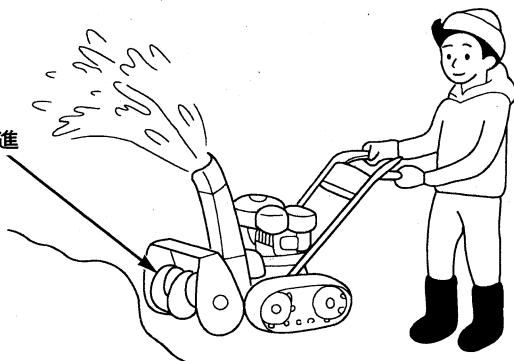


●断続除雪の方法

深い雪や、重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下する場合には、断続的に除雪を行ってください。

- (1)エンジン回転が回復するまで走行クラッチ レバーから手を離します。
(この時オーガ クラッチ レバーは握ったままにしておきます。)
- (2)除雪部の雪がなくなり、エンジン回転が回復したら走行クラッチ レバーを握ります。(車速は低速にしておきます。)
- (3)再びエンジン回転が低下する場合には、(1)~(2)を繰り返して行います。

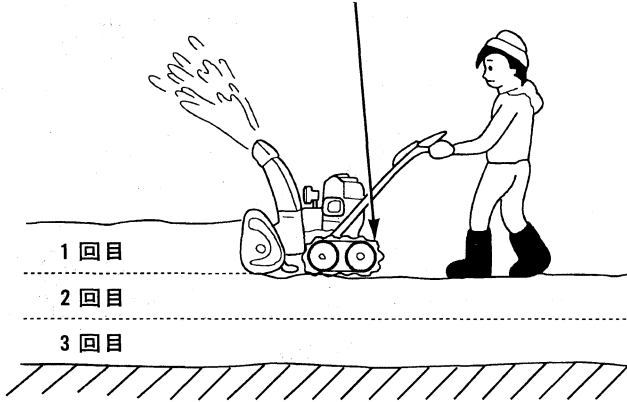
除雪部の雪が
なくなったら前進



●段切除雪の方法

積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合は段階的に除雪を行ってください。

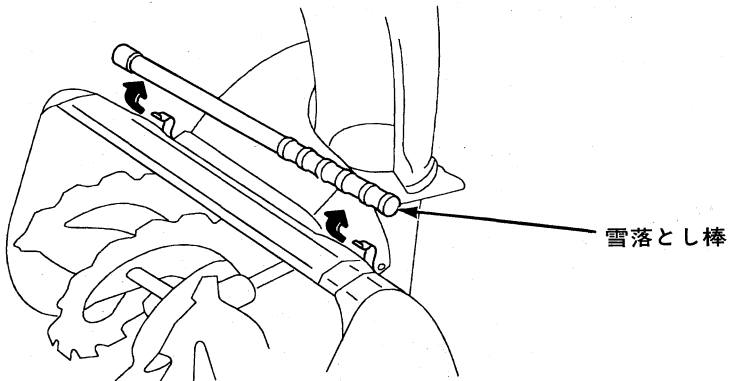
のぼる時はハイト アジャスト
ペダルを“高”にあわせませす。



☆除雪作業中、投雪口に雪が詰ったときは、雪落とし棒で除去します。

注意

- ・投雪口に詰った雪を除去するときは、エンジンを停止し、プラグ キャップを取り外し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪落とし棒を使って雪を取り除いてください。

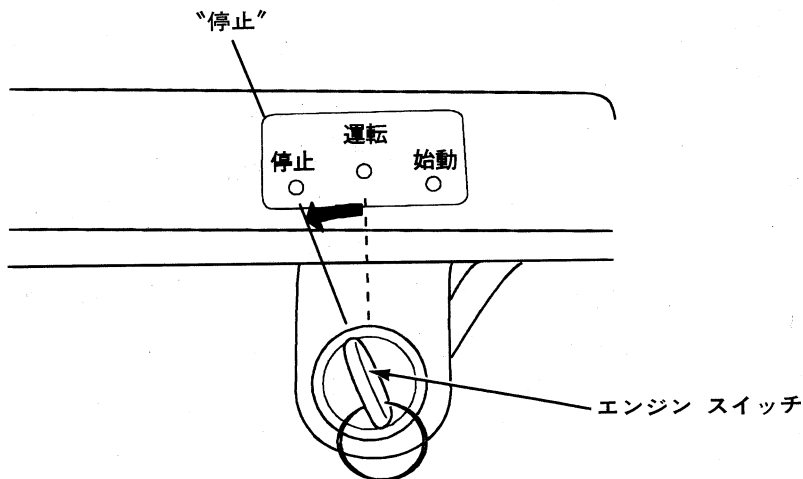


☆雪落とし棒は使用后必ず元の位置にセットしてください。

除雪機の止めかた

●緊急停止の場合

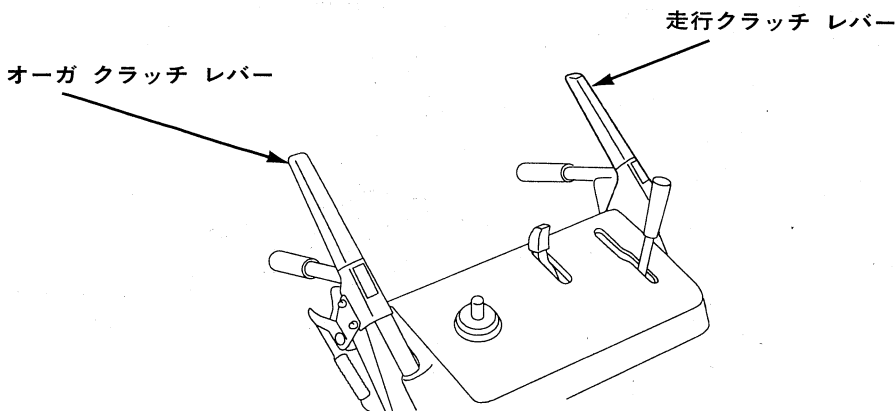
エンジン スイッチを“停止”にして、キーを抜きます。



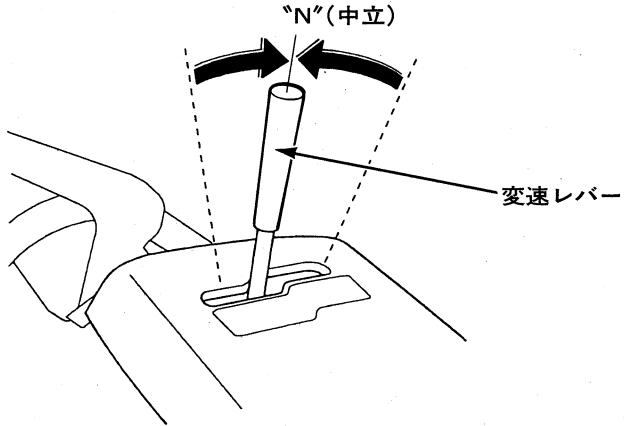
☆エンジン スイッチを使って本機を緊急停止させた場合は再び始動する前に変速レバーを“N”(中立)の位置にしてください。

●通常停止の場合

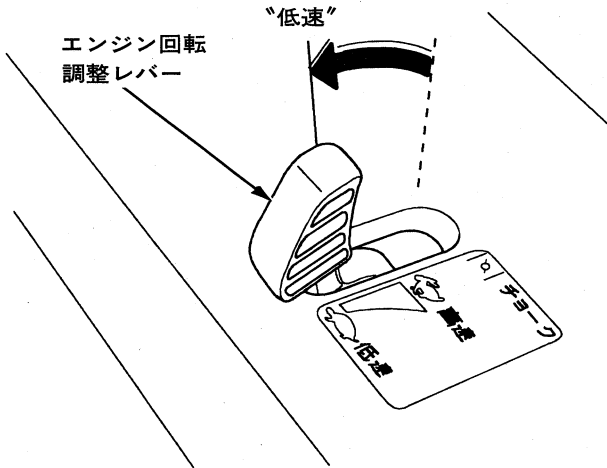
1. 走行クラッチ レバー、オーガ クラッチ レバーから手を離します。
走行が停止し、オーガの回転が停止します。



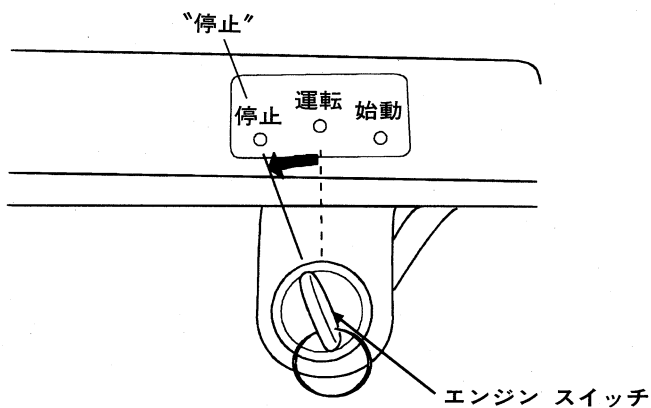
2. 変速レバーを“N”(中立)の位置にしてください。



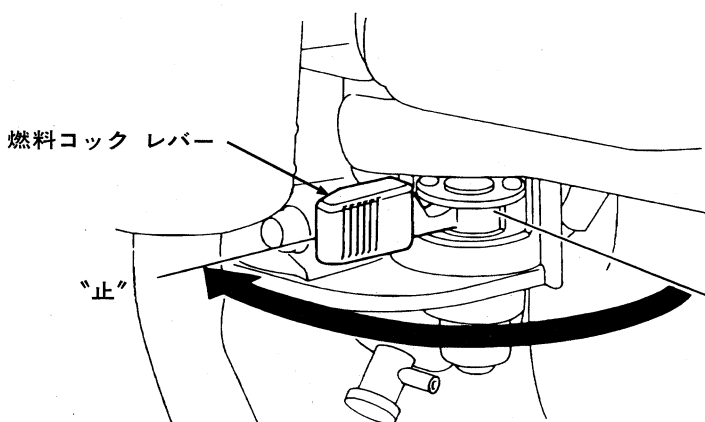
3. エンジン回転調整レバーを“低速”の位置に合わせてください。



4. エンジン スイッチを“停止”にして、キーを抜きます。



5. 燃料コック レバーを“止”に合わせます。



注意

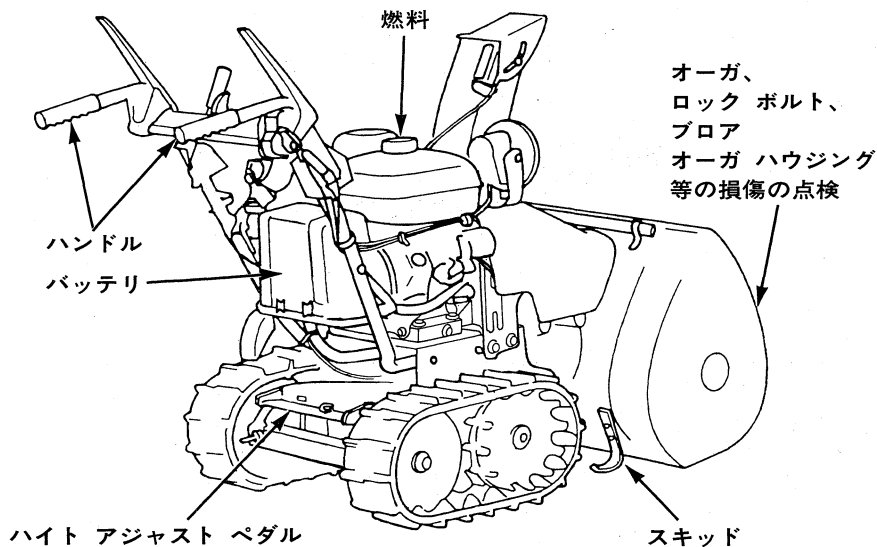
・本機には駐車ブレーキ機構がありませんので坂道での駐車はしないでください。

定期手入れを行いましょ

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行ってください。

- エンジン オイル……規定量入っているか。
洩れはないか。
- 燃料……残量
- 各部の締付け……ハンドルのがたはないか。
- バッテリー……バッテリー液の点検(20頁参照)
- スキッド……スキッドの高さ調整(30頁参照)
- 投雪方向調節スイッチ、ハイト アジャスト ペダル……作動の確認。
- オーガ、ロック ボルト、ブロー、オーガハウジング等の損傷については、特に点検を行ってください。
- 異常箇所はなかったか。
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検を受けましょう

販売店で実施していただく点検整備項目について

この取扱説明書に記載されているお客様ご自身で行っていただく点検、整備項目のほかに、お買いあげ販売店で定期的に行なっていただく項目があります。お買いあげいただきました除雪機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

販売店で実施する定期点検整備項目

- 変速機オイルの点検……………降雪時期 除雪初め
- バッテリー液の比重……………降雪時期 除雪初め
- 走行ベルトの点検・調整……………降雪時期 除雪初め
- オーガ ベルトの点検・調整 ……降雪時期 除雪初め
- オーガ、走行クラッチ ケーブルの点検・調整 ……降雪時期 除雪初め
- シュータ ガイド コントロール ケーブルの点検・調整…降雪時期 除雪初め
- スロットル、チョーク ケーブルの点検・調整 ……降雪時期 除雪初め
- 燃料チューブの点検…………… 2年毎
- 交換…………… 4年毎
- HTSオイル チューブの点検…………… 2年毎
- 交換…………… 4年毎
- 吸入、排気弁すき間の点検・調整…………… 4年毎
- 燃料タンク、燃料ろ過鋼の清浄…………… 4年毎

点検整備を行ったときは、販売店で巻末の点検整備記録表に記入してもらってください。

やさしい点検・整備

注意

・点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止してエンジン スイッチキーを外し、点火プラグ キャップを取り外して行ってください。

エンジン オイルの交換

(初回20時間目にも交換してください。)

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回20時間目、以後：年1回除雪時期の初め

《推奨オイル》

(4サイクル ガソリン エンジン オイル)
ホンダ純正汎用寒冷地オイル(SAE 5W-30)
又はAPI分類SE又はSF級以上のSAE 5W-30
エンジン オイル。

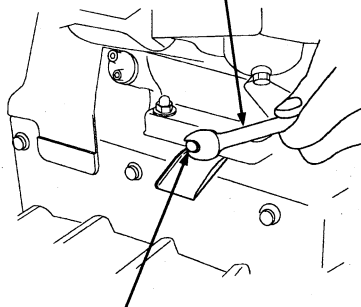
《オイル容量》HS660 ———— 0.6 ℓ

HS870/HS970 — 1.1 ℓ

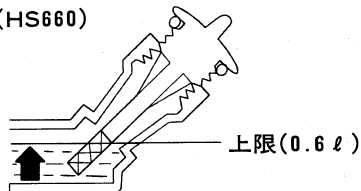
《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外して (HS660)
オイルをぬきます。
2. オイルがぬけたら排油ボルトを確実に締付けます。
3. 新しいエンジン オイルをオイル給油口の口元または上限まで注入します。
4. 注入後キャップを確実に締めつけます。

使用工具
両口スパナ



排油ボルト



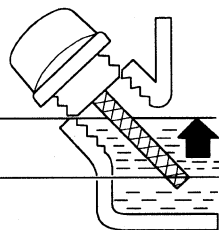
上限(0.6 ℓ)

(HS870)

(HS970)

口元(1.1 ℓ)

下限



注意

- ・エンジン停止直後にオイルを抜く時は、オイルの温度が高いのでやけどに十分注意してください。
- ・オイルを抜く時は燃料コック レバーを必ず“止”にしてください。燃料コック レバーを“止”にしないと気化器から燃料がもれることがあります。

点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極のすき間が不適當ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

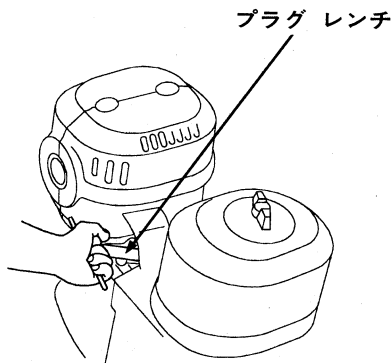
《清掃時期》

年一回初めの点検

《清掃のしかた》

1. プラグ キャップを取り外してください。
2. プラグ レンチ(同梱工具)で点火プラグを取り外します。
3. プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。



《調整》

《調整のしかた》

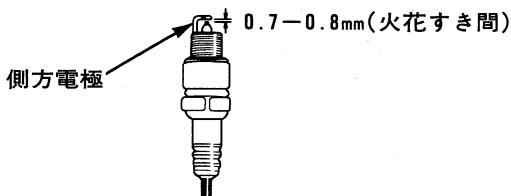
側方電極を曲げて火花すき間を下記寸法に調整します。

適正すき間：0.7-0.8mm

《指定プラグ》

BP5ES(NGK)

W16EP-U(NIPPONDENSO)



注意

- ・指定以外のプラグを使用しないでください。
- ・エンジン停止直後は温度が高いため、やけどをしないよう注意してください。
- ・プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。
- ・点検調整後はプラグ キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

クローラ張り調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

《点検時期》

年一回初めの点検

《点検のしかた》

クローラ中央部を強く(約15kg)押した時たるみが下記寸法になっているか点検します。

適正寸法：

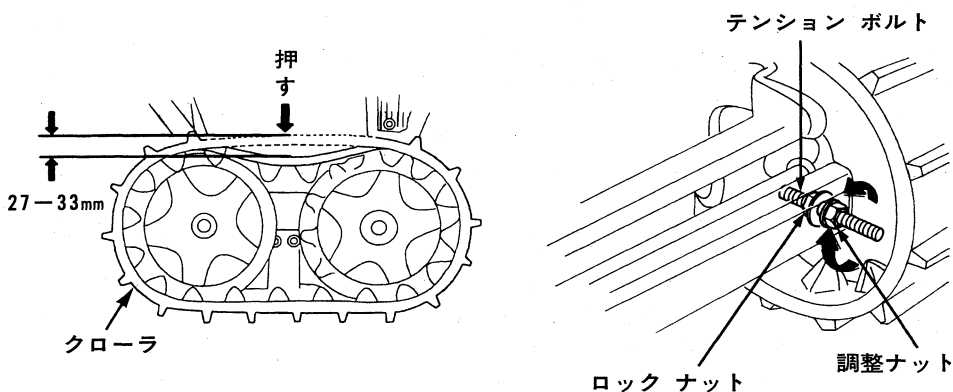
27-33mm

《調整のしかた》

1. ロック ナットをゆるめて、調整ナットを回して調整してください。
右に回わすとクローラは張ります。
左に回わすとクローラはゆるみます。
2. 規定量になるように調整してください。
3. 調整後確実にロック ナットを締付けてください。
4. 左右同じ方法で点検、調整してください。

注意

・クローラ ゴムが凍結している時は正しい張り調整ができません。必ず凍結を取り除いてから調整してください。



除雪部の点検

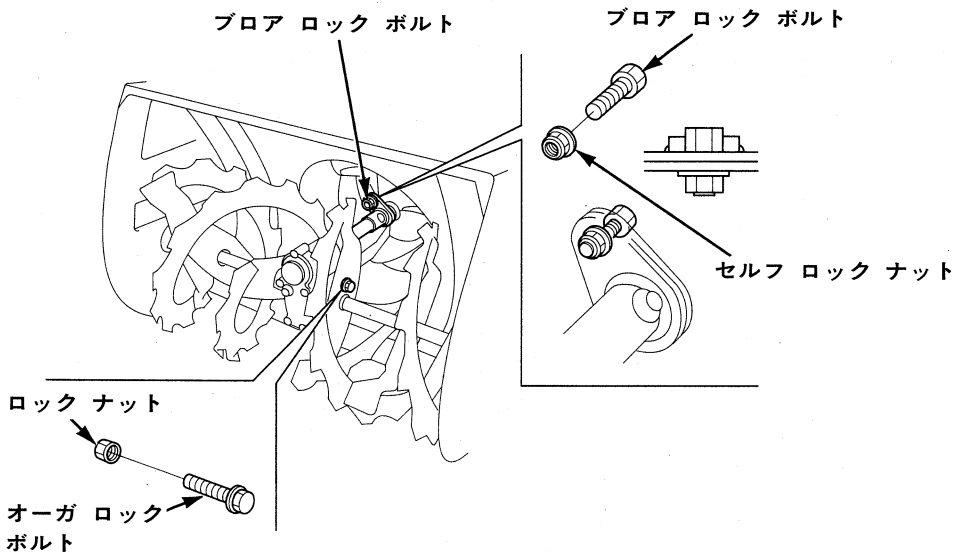
オーガ、ロック ボルト、オーガ ハウジング、ブローアに損傷のないことを点検します。

オーガ・ブローアのロック ボルトのゆるみ、折れを点検します。

もし折れている場合は下記の手順で同梱されているロック ボルトと交換してください。

ロック ボルトの交換方法

1. 本機を平坦な場所に水平に止めてください。
2. オーガ クラッチ レバーを“止”にしてください。
走行クラッチ レバーを“止”にしてください。
3. 変速レバーを“中立”にしてください。
4. エンジン スイッチを“停止”にして、点火プラグ キャップを外し各回転部が停止している事を確認してください。
5. オーガ ブローアの凍結または異物(石、棒、針金等)を取り除きます。
6. 除雪部を点検してください。
7. 折れたロック ボルトを取り除き、新しいロック ボルトと交換し、確実に締め付けてください。



各部の作動点検

年一回除雪時期の初めに、次の点検を行ってください。

- ・エンジンの始動、停止
- ・レバー類の作動
- ・スイッチ類の作動
- ・その他の可動部分の作動

ヒューズについて

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れる恐れがあります。

規定容量……メインヒューズ：20A サブヒューズ：5A

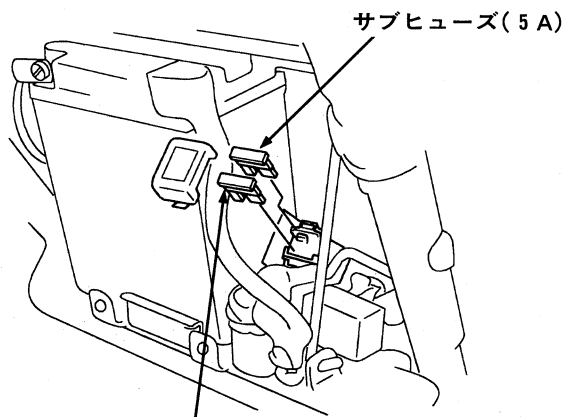
(メイン ヒューズ：5A—HS870)

注意

- ・指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

1. バッテリー カバーを取り外してください(20頁参照)。
2. 切れたヒューズを新品のヒューズ(5A・20A)と交換してください。



メインヒューズ(20A)
メインヒューズ(5A)—HS870

運 搬 す る 時 は

アユミ板を使ってトラックへの積み降ろし

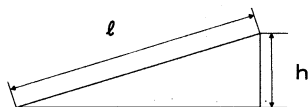
《積み降ろしをする前に》

1. 積み降ろしは平坦な場所で行って下さい。
2. 使用するアユミ板の、許容荷重を確認してください。

本機の総重量：HS660—89kg

HS870—113kg HS970—116kg

3. 下の表を目安に傾斜角度が15度以下になるようなあゆみ板を選んでください。



アユミ板の長さ(ℓ)	2.5m	3.08m	3.5m
地面からアユミ板までの高さ(h)	50cm	60cm	70cm

4. 幌または、キャブ付のトラックでは、あらかじめ高さを確認してください。最低1.5mの高さが必要ですが、もし高さが不足している場合はあらかじめ投雪口を外してください。
5. 燃料が十分あるか確認してください。“空”に近いとエンストしてしまうことがあります。

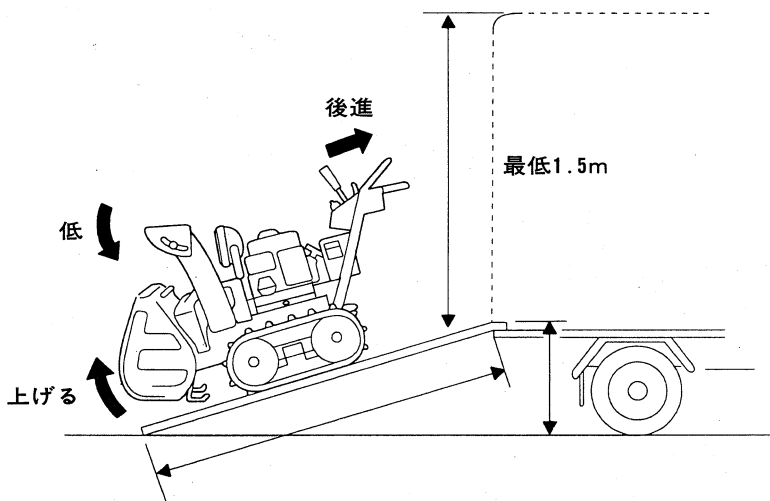
《手順》

- ①アユミ板の幅をクローラの幅に合わせます。
- ②ハイト アジャスト ペダルを踏み“高”の溝に合わせ、除雪部を最上位置まで上げます。
- ③投雪口調整スイッチで投雪口を下までいっぱいに下げます。

- ④変速レバーを後進に入れ十分に車速を落として、後進でアユミ板を登ります。
- ⑤除雪部が幌などに当たらないように注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

注意

・アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は変速レバーを“N”(中立)にして再始動してください(33頁参照)。HST切換えレバーは自走の位置にしないでください。本機が空走することがあります。

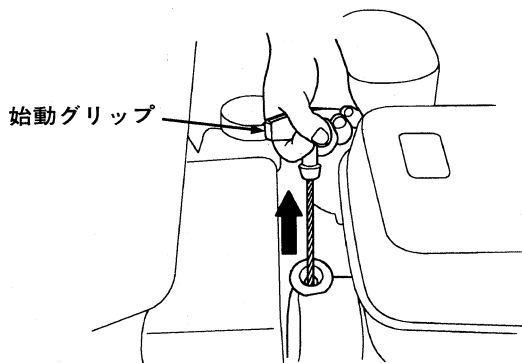


長期間使用しない時の手入れ

降雪シーズンも終わり長期保管する時は、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

1. 保管するときはエンジン スイッチ キーを外してください。

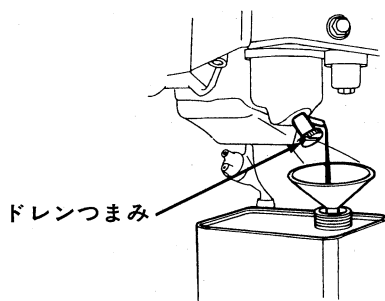
始動グリップを引き重くなったところで止め、しずかにグリップをもどしてください。



2. 燃料タンク、気化器(キャブレータ)のガソリンをぬきます。

《ぬきかた》

1. 燃料コック レバーを“出”に合わせます。
2. 気化器のドレンつまみをゆるめてガソリンを容器に受けます。
3. 完全にぬけたらドレンつまみを確実に締め付けます。
4. 燃料コック レバーを“止”にします。



注意

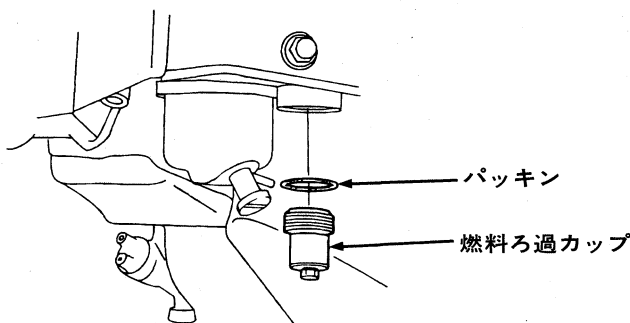
- ・ 燃料をぬくときは火気厳禁。
- ・ ぬいた燃料は十分に注意して保管してください。

3. 燃料ろ過カップの清掃

1. カップを外し洗油で洗浄します。
2. パッキン、カップを取り付け確実に締めつけます。

注意

・火気厳禁



4. バッテリの手入れ

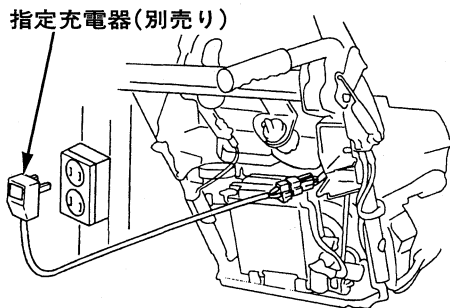
保管時は、バッテリーの一端子を外しておいてください。(20頁参照)。

長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は放電しますので6ヶ月に一度および除雪時期の初めと終わりに、バッテリーを外して補充電を行ってください。

充電器は市販の充電器(12V用)をご使用ください。

補充電のしかた

- ① カプラを取り出してください。(青色)
- ② 充電器のリード線カプラをメス側カプラに接続してください。
- ③ 充電時間：1.2Aで5～10時間
- ④ 補充電後は必ずカプラを元の位置に固定してください。

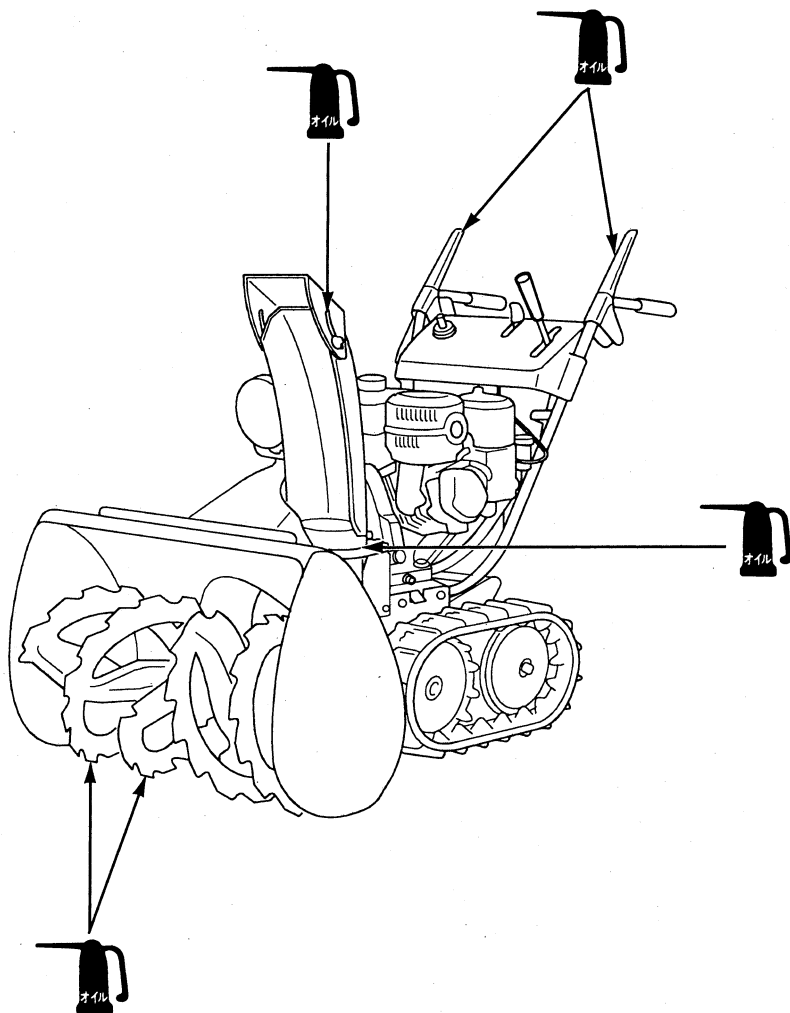


注意

・充電中にエンジンをかけないでください。

●保管時の給油箇所

作業を終わり次のシーズンまで保管する前に次の箇所にオイルを補給してください。



故 障 の と き は

むやみに分解しないで、早めにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが、除雪機を長持ちさせる秘けつです。毎年シーズン前に点検を受けましょう。

始動しないときは次の点を確認しましょう。

- 始動方法は、取扱説明書どおりですか？
- ガソリンはありますか？
- 燃料コック レバーは“出”の位置になっていますか？
- オイルは規定量ありますか？
- 点火プラグから火花が出ますか？

プラグ キャップを外し点火プラグを取り外して、プラグ キャップに取付け、プラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ キャップ以外には触れないでください。)エンジン スイッチを“始動”にします。この時、プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。この点検をする前に、シリンダやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またはぼろきれで完全に拭きとってから行ってください。

注意

・この点検は風通しのよい場所で行ってください。

~~~~~少し時間をおいて

もう一度確認しましょう~~~~~



# 主 要 諸 元

|     |         |         |       |
|-----|---------|---------|-------|
| 名 称 | HS660K2 | HS870K1 | HS970 |
| 型 式 | SZAJ    | SZAK    | SZAS  |

## エンジン

|               |                                      |                    |                    |
|---------------|--------------------------------------|--------------------|--------------------|
| 名 称           | ホンダGX160K1                           | ホンダGX240K1         | ホンダGX270           |
| 最 高 出 力       | 6.0PS/4,000rpm                       | 8.0PS/3,600rpm     | 9.0PS/3,600rpm     |
| 排 気 量         | 163cm <sup>3</sup>                   | 242cm <sup>3</sup> | 270cm <sup>3</sup> |
| 内 径 × 行 程     | 68×45mm                              | 73×58mm            | 77×58mm            |
| 始 動 方 式       | セル及びリコイル併用                           |                    |                    |
| 点 火 方 式       | トランジスタマグネト                           |                    |                    |
| オ イ ル 容 量     | 0.6ℓ                                 | 1.1ℓ               |                    |
| 燃 料 タ ン ク 容 量 | 3.5ℓ                                 | 6.0ℓ               |                    |
| 点 火 プ ラ グ     | BP5ES (NGK)<br>W16EP-U (NIPPONDENSO) |                    |                    |

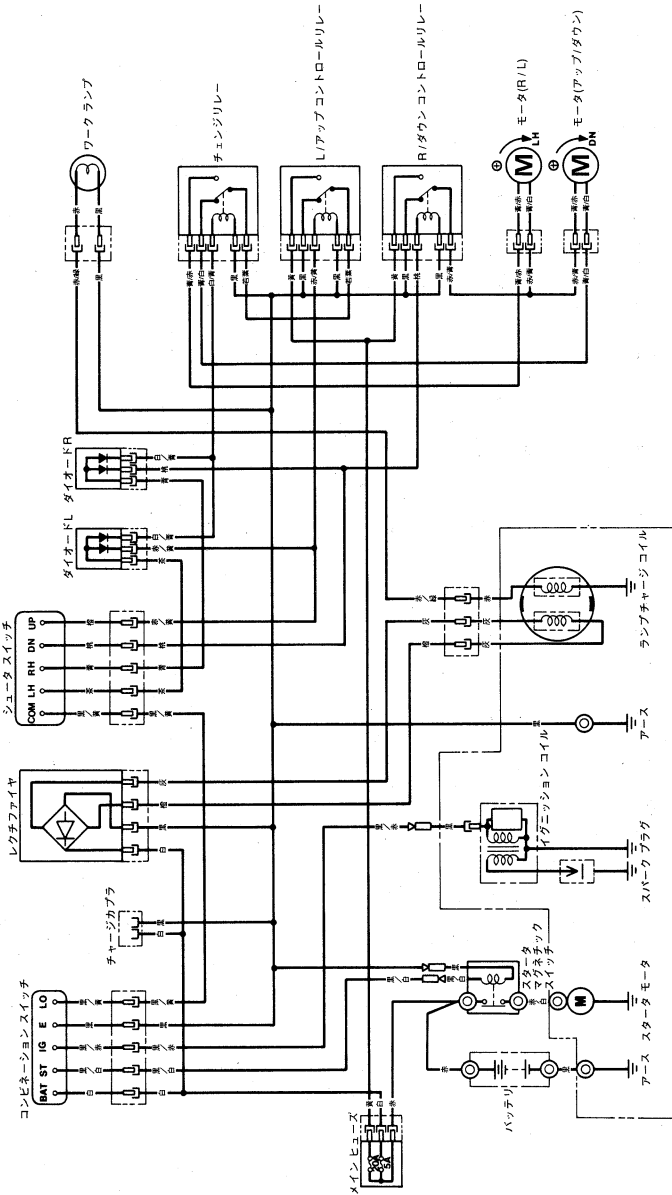
## フレーム

|         |         |         |       |
|---------|---------|---------|-------|
| 全 長     | 1,335mm | 1,400mm |       |
| 全 幅     | 620mm   | 725mm   |       |
| 全 高     | 970mm   | 1,022mm |       |
| 乾 燥 重 量 | 84kg    | 107kg   | 109kg |
| 除 雪 幅   | 605mm   | 710mm   |       |
| 除 雪 高   | 420mm   | 510mm   |       |
| 投 雪 距 離 | 最大12m   | 最大15m   |       |

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

配

線



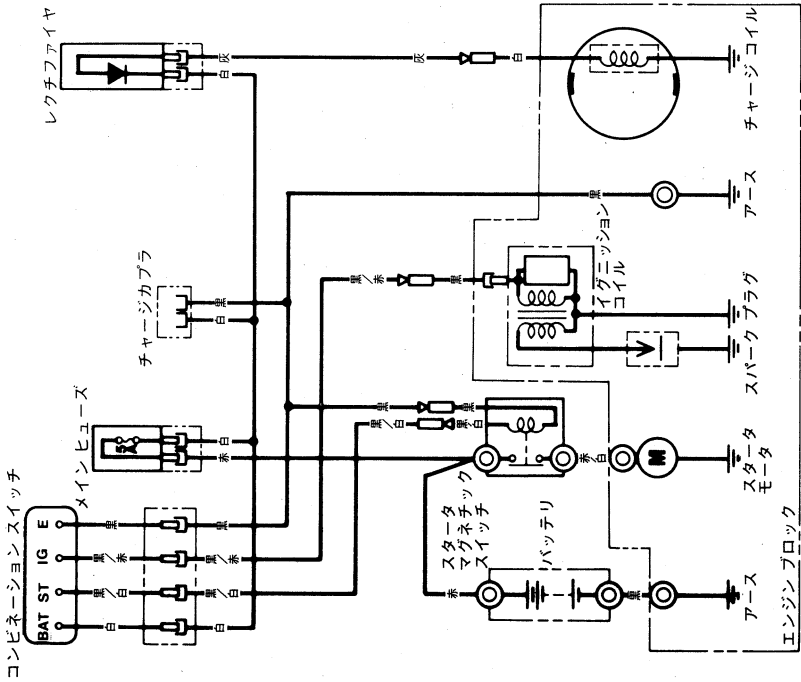
コンピネーションスイッチ接続表

| BAT | ST | IG | E | LO |
|-----|----|----|---|----|
| OFF |    |    | ○ |    |
| ON  |    |    |   | ○  |
| ST  | ○  |    |   |    |

シュニータスイッチ接続表

| COM | UP | DN | RH | LH |
|-----|----|----|----|----|
|     | ○  |    |    |    |
|     |    | ○  |    |    |
|     |    |    | ○  |    |
|     |    |    |    | ○  |

(HS660/HS970)



|     | BAT | ST | IG | E |
|-----|-----|----|----|---|
| OFF |     |    | ○  | ○ |
| ON  |     |    |    |   |
| ST  | ○   | ○  |    |   |

コンピネーションスイッチ接続表

(HS870)

メ

モ

メ

モ

メ

モ

**HONDA**

本田技研工業株式会社  
東京都港区南青山2-1-1

30767710  
00X30-767-7100

K1

Ⓝ 10009409